

ホーム名：グループホーム神田イン国分 1階				
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価
			実施状況	実施状況
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生活される方々のこれまでの人生を尊重し、落ち着いた雰囲気の中で自分らしく暮らす事が出来るように、私たちは温かく支援します」を理念として掲げ、運営理念を研修計画に組み入れ、職員は共有し再確認しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を事業所理念として設定されている。理念の実践は、日々のケアサービス中で振り返り、理念がケアに反映されているのか確認されている。また、年1回、事業所内研修を実施し、理念を掘り下げて話し合いが行われ、理念とその実践の意思統一につなげている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域との交流を深めるため、ボランティアの皆様に来ていただくことだけでなく、積極的に入居者様が地域に出かけて行ける機会を多く持つことを継続しています。	市や地域主催の様々なイベントに利用者と職員が参加することにより、地域に暮らす住民の一員として、地域との交流を深めている。また、地域向けに年2回の認知症の理解を深める勉強会を市や医療や介護関係者、認知症家族会等と協力しながら開催し、利用者とその家族が、地域で暮らし続けるための基盤づくりにも取り組まれている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に1回、地域の方に向け認知症を理解して頂くための勉強会を行っています。また、認知症家族の会への毎回の参加では、家族様へのご相談にのる事もあります。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市職員、包括職員、民生委員、入居者家族、地域での関わりある方々が会議に出席いただいています。実際取り組んでいること、研修の内容の説明等、また皆様から意見を伺う事で今後の実践に繋げて行っております。	2カ月に1回開催され、市職員、地域包括、民生委員等地域の代表者、利用者のご家族の方等が出席され、事業所からの状況報告とともに参加者からも質問、意見、要望等があり、双方向的な会議が行われている。会議の証跡は、議事録に記録され、いつでも過去の会議内容を振り返ることができる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の高齢介護課や福祉指導監査課とはいつでも相談できる関係にあります。市のGH従業者部会にも毎回参加し、市が主催するシニア大学ではGH代表として発表者としても参加いたしました。	市職員に運営推進会議に出席して頂き、事業所の状況を情報共有できている。又、必要に応じて、市職員とも日頃から報告、連絡、相談を行い、緊密な連携ができています。また、事業所主催の地域勉強会や市主催のシニア大学への協力を通じて、協力関係がより深まっている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束も年間研修計画に組み入れており、職員同士拘束のないケアに努めています。玄関に鍵をかけず、禁止するような言葉や行動をさえぎらないケアを常に職員同士で話し合う機会があります。委員会を立ち上げており、月1度の話し合いで拘束に繋がる事案はないか予防に努めています。	事業所内での研修や会議等で職員同士が意見交換を行い、事業所の身体拘束ゼロ宣言に基づく活動の取り組みが行われている。利用者の安全確保を確保しながら、玄関等の施錠はしていない。利用者が外出される際には、職員が同行するようにしている。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研修等に参加出来る機会があれば、伝達研修を行っており所内で全職員が周知しています。また言葉の抑制、などについて毎日の申し送り等で所内で振り返る事でケアの見直しに繋がっています。虐待についても委員会を立ち上げており毎月1度虐待に繋がる事案はないか話し合い予防に繋がっています。	

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>機会があるごとに研修に参加を行い学ぶ機会を持っている。当ホームでも成年後見人制度を利用されておられる入居者がおられ、機会あるごとに後見人にご相談しています。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者が入居者様、家族様より十分な時間をいただき説明を行っており改定のある場合などは、文章をもって正確に説明し、ご理解納得の上ご同意を得ています。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者様とじっくりお話しをさせていただくとき、また家族様訪問時など意向やご意見を伺いやすいよう常に気を配った態度で接しています。ご意見箱の設置、苦情等も速やかに対応させていただいております。</p>	<p>家族には事業所訪問時や運営推進会議等で常に声かけを行い、出された意見、要望等は職員、管理者と話し合いが行われ、運営に反映できるものは反映させている。また、事業所に訪問できていない家族には、ホーム便りを通じて、利用者様の生活状況がわかる記録を送付している。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員の全体会議やフロア会議等で職員の意見や思いに耳を傾けるだけでなく、職員個人との面談などで、普段意見の言われない職員の思いも汲みいれるような機会を作っています。</p>	<p>管理者は、各職員からの運営や管理についての意見に耳を傾け、運営に活かし、職員の働く意欲の向上にもつながるよう努めている。また、ワークライフバランス等職員の働き方改革につながる取り組みを通じて、職員が働きやすい環境の中で、意見等が出しやすい環境づくりにも努めている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者の理事長は職員各自が向上心を持って働くことが出来るように、研修や勉強会に積極的に参加を勧め、また職員の努力や実績に対しても正當に評価され、キャリアパスを用い給与面でも反映されています。より良い職場環境の整備を实践する事に努めておられます。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修を受ける機会を確保し、また必要に応じて、研修を探し受けてもらっています。研修報告書を書くだけでなく、内部研修として、発表する機会を勧めています。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>従業者部会での司会等担当したり、地域での勉強会での段取りを組んだりしています。月に何度か同業者事業所を訪問や見学に伺い、サービスの向上に繋がる事を研鑽しています</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス導入前にはご本人とも何度か面談し、ご本人のニーズは何か見極めるようにしています。また、安心してサービスを受けていただけるように、関係作りに努めています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス導入時、家族様が納得いかれるまで必ず毎日ご本人の様子を電話連絡しています。家族様のご要望もお聞きしより良いサービスの提供が出来るように努めています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご入居される前に家族様と何度か面談し家族関係にも配慮した暫定計画を作成しています。前もって暫定計画を職員にも回覧し、計画について話し合う機会を作っています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は運営理念を基本に、自立支援を念頭に置き、入居者様の立場に立つケアを行い、暮らしを共にする関係を築いています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常に職員はご本人と家族様の絆を大切に思っています。事業所での生活を定期的に報告し、家族様の考えもお聞きし、共に本人を支える支援を行っています。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご近所の方が面会に来られたり、通っていた喫茶店に職員が同行し訪ねたりしています。またご家族様の協力のもと、家に帰ったり外出されたりと関係継続の支援をおこなっています</p>	<p>ご家族や友人、知人が気軽に面会に来てもらえるような雰囲気づくりや近隣のお店への訪問や散歩等を通じて、地域の方と交流を行い、地域との関係性も維持継続できるよう日頃のかかわりの中で様々な工夫をされている。また、友人や知人等へのお手紙を出す支援を行い、事業所への訪問が難しい方々との関係性維持にも努めている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>認知症の進行やご本人の性格なども配慮し、自立支援を妨げない、入居者様同士の会話や関係がスムーズにできるような席の配置など考えています。また自然に関わり合いを持てるように職員が支援しています。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了した入居者の家族様にも、行事がある度にご連絡をしています。また、近所まで来たからと立ち寄って下さる家族様もいらっしゃる、思い出話や家族様の今のお話を聞かせてくださいます。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>運営理念を基にご本人の思いを大切にし、本人本位のケアを実践しています。毎日の申し送りの中で、気づきなど職員間で共有し、フロア会議でも検討しています。</p>	<p>管理者と職員は、日々のケアの中で利用者に声を掛け、利用者が望む暮らしや何をしたいのか等の理解と把握に常に努めている。また、記録シートを活用し、利用者の思いや意向を引き出せるように記録し、職員会議等で、ケアへの反映等を検討されている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>本人の生活歴なじみの暮らしは職員間で共有できるように整備しており、日々の変化などから家族様にお聞きする機会ももっています。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>その日出勤している職員は、入居者様と関わりを持つことの中で、気づきなどを記録し、職員全員が入居者様の情報を共有しています。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>各入居者様の項目チェックをその日勤務職員が毎日記録し、日々の変化を共有し意見を述べる機会があります。定期的に担当者会議を開き、意見を言うだけでなく、必要に応じて、ご本人に関わる方からのご意見も求めています。</p>	<p>本人の視点にたつてその人らしい暮らしを続けられるために、必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成されている。又、本人の変化があれば、6カ月に1回の定期的な見直しを待たず、変化や必要性に応じて介護計画は見直しされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入居者様の状態の変化等、毎日の記録に記載しています。記録による入居者様の状態の把握するだけでなく、主治医や関係者にも助言を求め実践に繋げています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご本人様のニーズや取り巻く状況に対処出来るように、職員間や事業所で連携を取り、支援やサービスを行っています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>住み慣れた地域との繋がりが継続出来るよう、園児の訪問、中学生の学習体験を受け入れています。また、地域の行事にも参加し外部との関わりを多く持つように協力しています</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご本人様や家族様の希望を取り入れ適切な医療を受けられるように支援しています。状態や薬剤の情報交換する等連携に努めています。入居前にかかりつけ医や受診希望を確認し家族様と協力し通院介助を行っています。</p>	<p>母体医療機関による定期的な往診医療を受けられている。緊急時や夜間等での迅速な医療体制を構築し、利用者とその家族が安心できる医療連携を提供されている。また、訪問看護サービスや薬剤師による訪問説明等によるサポート体制も充実している。</p>	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>医療連携加算をとっており、日常の健康管理や訪問介護だけでなく、24時間必要な助言も常にいただいています。ドクターとの連携も取れ、適切な受診や看護を受けられるように支援しています。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>急変時の受け入れ先病院は事前に伺っており、入院が必要になった場合は主治医から病院に連絡し情報を交換しています。また総合病院との連携も取っており、緊急連絡カードを各個人が所持し、診療に必要な情報はIDナンバーにて管理保管されています。入院された場合も早期退院に向け常に連絡を取っています。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合、終末期のあり方、看取りについて入居時に事業所で出来る事を十分に説明を行い、看取りの指針に同意を得、署名捺印を頂いています。終末期ケア時には計画書の見直しや話し合いを持ち家族様の意向を再度確認しています。職員は日常の健康管理、急変時の対応等、研修を行っています。</p>	<p>事業所としての重度化や終末期の対応でできることとできないことを明確化し、入居時に利用者と家族に対し事情所としての方針を説明し、同意書を交わし、合意を頂いている。実際の対応場面では、本人と家族の意向を踏まえて、協力医療機関と事業所が連携をとり、本人と家族が安心して重度化や終末期を過ごせるように対応している。また、いざというときに対応できるように備えて、研修にも力を入れている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年間の研修計画に組み込んでおり、急変や事故発生に備えて職員全員が対応出来るよう、訓練し実践力を身につけています。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力の基、年2回の火災非難訓練を実施しています。また、市の危機管理課や高齢介護課と協力し災害時に対応や運営推進会議を通じて災害時には地域の皆様や家族様の協力もお願いしています。備蓄品に関しても、カセットコンロを用意しており、温かいものも提供できるように配慮しています。</p>	<p>想定される火災や水害に対し、消防署職員から、最適な避難対策のアドバイスを頂きながら、年2回の避難訓練で実践されている。この訓練結果は、マニュアルに反映し、過去の事態発生時に活用され、対応できている。また、災害時の水や食料等も必要な量が備蓄されている。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>運営理念にも掲げていますように、常に一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように自己点検の機会を持ち正しい対応の仕方を確認しています。</p>	<p>介助が必要な時は、本人の気持ちを大切に考えながらさりげない言葉かけやケアをされている。又、年長者としての敬意を払い、馴れ合いの関係にならないよう利用者の尊厳を大切にされている。また、研修を通じて得た知識も活用し、プライバシー保護と様々な環境の変化にも対応されている。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>押し付けないご自身で選択出来る機会を意識して取り入れています。ゆったり寄り添える場面を提供して、行動やコミュニケーションから思いを汲み取ることに努めています。</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>運営理念で掲げているように自分らしく暮らしていただく事を念頭に置き、職員はご本人に合わせたペースや希望に応じ話し合い、その日によって一日を過ごしていただいています。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご自分で更衣出来る方はそれぞれで選ばれます。外出の際など特に洋服バックなどTPOに合わせた選択肢を何点が提案し選択して頂いています。清潔な身だしなみを提供できるよう職員一同努めています。</p>	
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事を一緒に作るのが困難になってこられても、お米とぎや配下膳、食器拭き等、食事作りの雰囲気や常を感じて頂いています。お誕生日には当人の好きなものを伺い楽しんで食事が出来るような環境も提供しています。</p>	<p>職員による手作り食が提供されている。利用者は、好みに合わせて、分量を調整したり等で、食事を楽しめている。又、盛り付けや配膳、後片付け等、利用者個々の力を活かしながら職員が一緒に行うことを大切にされている。食事だけではなく、おやつづくりや近隣への外出イベント時の手作り弁当等なるべく職員と利用者が共に楽しめる機会を増やすことにも力を入れている。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>入居者様の状態に応じた食事形態、水分量、食事バランス等を、主治医や看護師の助言をいただき提供しています。また摂取量や水分量は記録し、主治医や看護師、職員共、把握しています。</p>	
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>ご本人の状態に応じた口腔衛生を食事後に適切に行われるよう口腔内清潔保持に努めています。必要に応じ訪問歯科医や歯科衛生士より診察や助言をいただいています。</p>	
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄状態を把握する為、正確に記録をとり、一人ひとりの排泄パターンを知り職員で共有しています。失禁を無くし、早めの誘導でご本人に不快を感じてもらわないよう支援しています。また布パンツを着用の方には長くその状態が継続できるように支援しています。</p>	<p>利用者は、回りを気にすることなく行きたいときにトイレに行くことができるような介助が行われている。介助が必要な利用者には、排出パターンを各職員が把握し、タイミングよく排出介助が行われている。その結果、排泄ケアを通じてQOL向上にもつながった利用者もおられる。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>なるべく自然排便を促すように、水分摂取には配慮しています。便秘が起こりにくいように体操や歩く事を職員と一緒に日々行っています。</p>	

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>毎日健康チェックを行い入浴を促しています。月に一度温泉の日を作り、季節のお湯を入居者様に楽しんでいただいています。清拭になられている方も入浴剤を用い温泉気分を味わってもらえる事もあります。</p>	<p>利用者は、希望に応じていつでも入浴可能。利用者の希望と利用者別のチェック表を考慮、確認してから入浴時間帯を調整している。又、気持ちよく入浴していただけるよう入浴剤等を活用し、季節感を感じてもらえるよう工夫されている。また、入浴後の飲み物も充実しており、利用者に好評を頂いている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>なじみのある形態で就寝を支援しています。事業所には和室があり、昼寝を和室でしたい方には自由に休息していただいています。部屋にもどって休息したい方にも制限をしておらず、部屋まで職員と一緒に付き添い、臥床されるまで見守りしています</p>		
47		<p>○服薬支援</p>	<p>常に医師や薬剤師と連携をとり、指示に従っています。複数の職員で服薬確認を行い、服薬による症状の変化など気をつけるように毎回申し送り時確認を行っています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ご本人や家族様からお話を伺い、生活暦等も踏まえながらそれぞれの役割に生きがいを感じてもらえるよう支援している。楽しいと思ってもらえた事を職員で共有し、喜びのある暮らしが出来るよう支援しています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>日々のコミュニケーションの中で情報を集め、家族様に外出、外泊の要望などご本人の思いを伝えていきます。また、日常的に散歩に行く事、買い物に行く事など、自由に出入りできるよう玄関扉には鍵をかけず、職員が同行させてもらいながら支援しています。</p>	<p>利用者が事業所の中だけで過ごさずに日常的に外出できるよう利用者の希望に応じて、近隣への散歩を楽しんでもらえるよう努めている。また、散歩等の外出が困難な利用者は、前庭等での外気浴を楽しまれている。家族との外出や外泊、自宅への一時帰宅等を楽しまれている利用者もおられる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を持つ事で安心される方は所持していただいていたが、隠され忘れられる為最近金庫で預かっています。買い物などもご自身でいただき、支払いもお願いしています。新聞や乳飲料など定期購入されている方もおられます</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は利用者家族双方から利用でき、日々活用されています。手紙や葉書も積極的声かけし年賀状も家族宛てに出してもらおうよう支援しています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節を感じて頂けるよう、1階からは景色を見ることが出来るようにしています。また廊下には家族様との写真などを貼り、なじみの空間を保つよう配慮しています。子供ばい飾りつけは止め、落ち着いた雰囲気でするように工夫しています。</p>	<p>利用者と暮らしとは無縁の飾りつけや装飾品をなるべく置かず、リビングは清潔かつ開放的で広く、日差しも差し込み、過ごしやすい空間となっている。また、キッチン、オープンキッチンとなっており、食事の準備や後片付け等で、職員と利用者がコミュニケーションがとれやすい環境になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルや椅子の配置は入居者様の状況により職員同士で考え変更しています。和室での対応やソファに移動され落ち着ける場所の提供を実践しています。庭にはベンチを置き、外の景色や空気を吸って気分転換をされる入居者様もいらっしゃいます</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や道具などなじみのある物を持ってきて頂いています。家族様からのプレゼントや写真など部屋にいても心地よく過ごせるような工夫を考え心配りを行っています。</p>	<p>各居室は、利用者に安らぎを与え、居心地よく過ごしてもらえよう思い出の品が持ち込まれ、飾りつけされている。共同生活空間とは別の個人のプライバシーが確保された利用者の個性と家族の思いが伝わる空間になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者様が自由に移動できるよう、安全に配慮した環境作りと、職員がさりげない見守りで安心を提供出来るように職員が支援しています。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない